国際医療福祉大学

5キャンパス 11学部27学科

大田原キャンパス

〒324-8501
栃木県大田原市北金丸 2600-1

入試事務室
TEL. 0287-24-3200　FAX. 0287-24-3199

URL https://otawara.iuhw.ac.jp/
E-mail nyushi@iuhw.ac.jp

26万㎡（東京ドーム約5.5個分）の広大な敷地に、学修・研究のための16棟の校舎とさまざまな設備を整備しています。キャンパス内に6つの医療福祉施設を併設しているのが、大田原キャンパスの大きな特長です。高齢者や障害を持つ方々と日常的に触れ合える教育・医療・福祉が一体となった理想的な教育環境のもと、医療福祉従事者にふさわしい人間性が形成されます。



保健医療学部
- 看護学科
- 理学療法学科
- **作業療法学科**
- 言語聴覚学科
- 視機能療法学科
- 医学検査学科
- 放射線・情報科学科

医療福祉学部
- 医療福祉・マネジメント学科
  - [福祉系] 医療福祉コース
  - [マネジメント系] 経営情報コース

薬学部
- 薬学科（6年制）

成田キャンパス
千葉県成田市公津の杜4-3
TEL. 0476-20-7810

医学部
- 医学科

成田看護学部
- 看護学科

成田薬学部
- 薬学科（6年制）

成田保健医療学部
- 理学療法学科
- 作業療法学科
- 言語聴覚学科
- 医学検査学科
- 放射線・情報科学科

小田原キャンパス
神奈川県小田原市城山1-2-25（本校舎）
TEL. 0465-21-0361

小田原保健医療学部
- 看護学科
- 理学療法学科
- 作業療法学科

大川キャンパス
福岡県大川市榎津137-1
TEL. 0944-89-2000

福岡保健医療学部
- 看護学科
- 理学療法学科
- 作業療法学科
- 医学検査学科

福岡薬学部
- 薬学科（6年制）

東京赤坂キャンパス
東京都港区赤坂4-1-26
TEL. 03-5574-3903

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部
- 心理学科
- 医療マネジメント学科

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学
https://www.iuhw.ac.jp/

※国際医療福祉大学については「国際医療福祉大学GUIDEBOOK2027」を、大田原キャンパスについては「大田原キャンパスGUIDEBOOK2027」をご覧ください。

26066000

OT

作業療法学科
Occupational Therapist



国家資格
作業療法士

作業療法士は
生活行為を支える
リハビリテーション専門職

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学

大田原キャンパス

社会で活躍する
未来の自分を想像しよう

「誰かのために役立ちたい」「身体のつくり、こころの動きに興味がある」
「高齢者や子どもを相手にする仕事に就きたい」

そんな想いを持つあなた、作業療法士という職業をご存じですか？
医療、福祉、教育、就労等さまざまな領域で求められているリハビリテーションの専門職です。

あなたの想いや笑顔が、からだやこころにハンディを抱える人たちを支えます。
共に国際医療福祉大学で学び、社会に貢献できる作業療法士になりませんか。



作業療法士は
生活行為を支える
スペシャリスト（国家資格）です。

作業療法士は、心身の障害の有無に関わらず幅広い世代の人々に、
「その人らしい生活の獲得」のために
こころとからだのリハビリテーションを行う専門職です。

起き上がる、歩くといった基本的な動作能力へのアプローチだけでなく、
食事、入浴、排泄といった応用的動作能力や
学校、仕事、趣味のようなその人らしい活動に注目した社会的適応能力の獲得のお手伝いをします。
作業療法士の対象とする人は、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害と幅広く、
その人が思う生活の実現に向けて、機能回復、環境の調整、代償手段の獲得を支援します。
障害を持っても、活動や参加をあきらめないお手伝いをするのが作業療法士です。



作業療法士への社会の需要は増大しています。

医療機関だけでなく、介護施設や障害者支援施設など人手不足となっており、今後さらに拡大します。

有資格者数（2026年4月1日現在）

作業療法士
123,418人

作業療法を必要とする人
10,000,000人以上（推定）

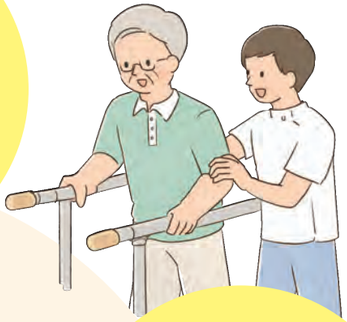
子どもから高齢者までの社会参加を支える作業療法士へのニーズ

子どもから高齢者まで、その人が暮らす住み慣れた地域で、その人らしく生活するための支援を実現します。発達に遅れがあっても、お友達と一緒に学ぶこと、障がいが残存しても、退院後自宅に戻って家庭内役割を再獲得すること、職場に復帰できること、高齢者が人生の多くの時間を過ごした住み慣れた家から通える場所があること等、それぞれのニーズに合わせハンディを持った方が社会参加できる方法を探り、環境の調整を行います。



身体的リハビリ

脳血管疾患や整形外科疾患などにより障害が残存することは少なくありません。その人らしさを大切に、実際の生活をイメージしながら身体機能の評価と作業療法の治療方法を計画します。



精神心理的リハビリ

目に見えない精神機能、心理機能の支援を行います。心の病を抱えた方に対して寄り添い、作業活動や集団活動を治療手段として用いることで、心の病の回復とその後の生活の再建を目指します。





作業療法士
Occupational Therapist
医療現場では「OT」と呼ばれます。

高齢者リハビリ

加齢に伴い起こる心身機能の変化により生活は大きく変わります。心情に寄り添いながら、環境調整や代償手段を用いてその方の望む生活の実現を目指していきます。

小児リハビリ

自閉スペクトラム症等の発達障害児、脳性麻痺等の肢体不自由児等、発達特性のある子どもに対して、園や学校等の社会生活における困りごとが少しでも軽減するよう、遊びを通して子どもの発達を促します。また、保護者へのアドバイスも行います。



働く場所は…

医療機関や福祉施設以外にも、保育園や児童クラブなどの児童保育、幼稚園や小・中学校の教育機関、企業やカフェでの就労支援、司法（刑務所）や政策（市役所）の場で活躍する作業療法士がいます。

作業療法士の魅力と本学の学びの特長

高い実践能力を備え、一人ひとりの思いに寄り添う作業療法士を育成。

作業療法士の仕事とは？



作業療法士は、病気やけが、障害などで生活に困りごとを抱える方に対して、
「できること」を増やすお手伝いをする専門職です。
食事や着替え、移動といった日常生活はもちろん、仕事や学校、趣味など、
その人らしい暮らしを取り戻すために、心と体の両面からリハビリを行います。
赤ちゃんから高齢の方まで、幅広い年代の方が対象です。
一人ひとりの目標に寄り添い、その人らしい生活を支えるのが、作業療法士の仕事です。

作業療法士の活躍

作業療法士は1965年にわが国に誕生した専門職です。医療や福祉、教育、地域など幅広い分野で活躍し、病院での治療的支援、子どもの発達支援、高齢者の介護予防、障害のある方の就労支援など、多様な役割を担っています。対象者一人ひとりに寄り添い、「その人らしい生活」の実現を支える専門職です。オックスフォード大学の研究（2013年）によると、作業療法士はAIやロボットに代替されにくい職業の一つで、702職種中6位にランクインしました。これは、作業療法士の仕事が創造性や対人関係能力を必要とし、人にしかできない対応が求められることを示しています。

作業療法士の未来像

これからの作業療法士は、医療や福祉の現場にとどまらず、コミュニティデザインやテクノロジー（サポートロボット、住環境や福祉機器）との連携など、さらに活躍の場を広げていきます。高齢化の進行や多様なライフスタイルに対応する中で、一人ひとりの「自分らしい生活」を支える専門職として、ますます重要な役割を担っていくでしょう。人と人とのつながりを大切にしながら、変化する社会に柔軟に対応する力が求められています。

必要な資質

文系（心理などヒューマニズム）・理系（生物学や物理学などサイエンス）、
人のために何かをしたい人、人の思いや気持ちなどに関心がある人

作業療法士には、相手の立場に立って考え、寄り添う「共感力」や「コミュニケーション力」が求められます。また、一人ひとりの生活や目標に合わせた支援を行うための「観察力」や「柔軟な発想力」も大切です。医学的な知識だけでなく、人の心や社会的背景への理解も欠かせません。さまざまな人と信頼関係を築き、その人らしい生活を一緒に考え、支える力が、作業療法士としての大切な資質です。

作業療法士に向いている人

子どもや高齢者など人と接することが好きな人



子どもや高齢者など人と関わることが好きで、相手の気持ちに寄り添いながら、その人らしい生活を一緒に考えられる人に向いています。

コツコツと興味のあることを続けられる人



コツコツと物事に取り組み、自分の興味を大切にしながら学び続けられる人は、作業療法士に向いています。粘り強さと探求心が力になります。

スポーツ経験から身体機能に興味のある人



スポーツの経験を通じて身体の動きや仕組みに興味を持ち、人の回復や機能改善に関心がある人は、作業療法士に向いています。

人の心に興味のある人



人の心の動きや精神心理的なサポートに興味があり、気持ちに寄り添いながら支えたいと思う人は、作業療法士に向いています。



大田原キャンパス
作業療法学科長
関森 英伸教授

国際医療福祉大学保健学部作業療法学科卒業（3期生）。
卒業後、国際医療福祉リハビリテーションセンターなす療育園勤務。
その後、母校である大田原キャンパス保健医療学部作業療法学科教員となり現在に至る。
国際医療福祉大学大学院博士課程修了（保健医療学博士）。

大田原キャンパス作業療法学科では、「その人らしい生活の実現」を支える作業療法士を育成しています。本学科は30年の歴史を持ち、多くの作業療法士を輩出してきました。伝統ある教育の土台に加え、AIやICTを活用した支援技術、地域包括ケアや学校作業療法など、最先端の知見や教育法も積極的に導入し、常に進化を続けています。
教育の特色として、1年次から地域の多様な現場で実習に取り組める点が挙げられます。また、当事者や専門職と関わりながら、観察力・判断力・コミュニケーション力を実践的に養っていきます。さらに、学年間でチームを組み1年間かけて課題に取り組む「NEXTゼミ」では、仲間との協働を通じて、人を支え、支えられる経験を重ねていきます。教員の多くは卒業生であり、後輩への惜しみないサポートが、安心して学べる環境をつくっています。人と深く関わり、「その人らしさ」に寄り添う作業療法の魅力を、ぜひ本学で体験してみてください。やさしさと専門性を備えた作業療法士を、私たちと一緒に目指しませんか？

充実した学びのサポートで作業療法士を目指す学生を支援。

Early Exposure × 地域

1年次より医療機関に留まらず、地域（小学校、就労支援施設等）で活躍する作業療法士の現場を見学し話を聞くことで作業療法士を目指す自覚、学生のキャリア形成を刺激します。



NEXTゼミ × 多様性

1～4年次の混合縦割りクラスを作り、アカデミックスキル・ライフスキル向上に向け活動しています。学年を超えた交流の機会を得ることにより、縦・横のつながりを強化し、多様な学生と交流、意見交換することで、共に生きる社会の実現を意識する狙いがあります。



国内最大数の養成者数

開学以来、本学科の養成者数は2,621名（2025年4月1日現在）となり、国内最大数の養成を行っている実績があります。

養成者数 2,621名

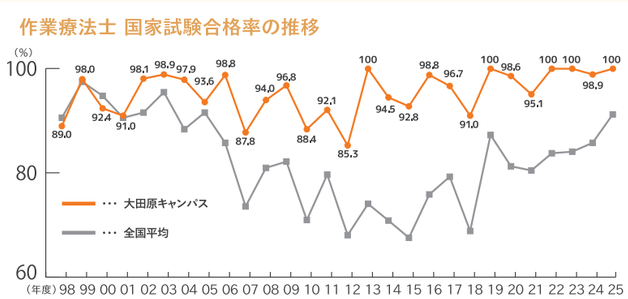
全国トップクラスの国家試験合格者数

本学では全員合格を目指して、早期より国家試験対策に力を入れ、学生を国家試験合格へ導いています。また教員による出題傾向の分析や定期的な模擬試験の実施を行っております。2025年度国家試験合格率は100%（全国合格率91.2%）・合格者数69名であり、合格者数・合格率は全国トップクラスです。

合格率 100%
全国合格率 91.2%

2025年度合格者数 全国1位
合格者69名

作業療法士 国家試験合格率の推移



充実の実習環境と実務経験豊富な教員

恵まれた実習環境を生かし、臨床経験豊かな教員が指導を行います。

附属病院や施設をはじめ、充実した実習環境を整備

大田原キャンパスには、作業療法士を目指す学生の学びを支えるため、充実した実習施設が整備されています。医療や福祉などの実習環境で、臨床に直結した技術や対応力を身につけることができます。身体・精神機能や日常生活動作、社会的活動の評価・訓練を行う設備環境、子ども向けの発達支援施設なども備え、幅広い対象に対応できる力を養います。実践的な学びを通して、即戦力となる作業療法士を育成しています。

関連施設（一部抜粋）


国際医療福祉大学那須医療センター
(栃木県那須塩原市)


国際医療福祉大学塩谷病院
(栃木県矢板市)


国際医療福祉リハビリテーションセンター
(栃木県大田原市)


介護老人保健施設 マロニエ苑
(栃木県那須塩原市)


特別養護老人ホーム 栃の実荘
(栃木県那須塩原市)


特別養護老人ホーム おおたわら風花苑
(栃木県大田原市)

大田原キャンパス A棟 1階

ADLシミュレーションルーム



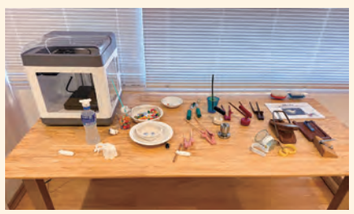
ADL（Activities of Daily Living）は「日常生活活動」を意味します。ADLは普段生活する際に行っている生活行為すべてを指します。作業療法士はADLを支援するスペシャリストです。2025年に国際医療福祉大学は開学30周年を迎え、記念企画として「ADL室」から「ADLシミュレーションルーム」にリニューアルされました。
ADLシミュレーションルームは、障害者でも健常者でも使いやすいバリアフリー住宅を模した演習室です。音声や視線、タブレット等を用いた環境制御装置により、その人の状態に合わせた家電や照明の操作が学べます。また、手すりが調整できるトイレやお風呂、作業台の高さを変えられるキッチンなどを用いることで、在宅生活を支える環境調整方法を実践的に学修します。

施設概説


調理動作支援
家事動作の１つである“調理”をテーマに道具や姿勢の工夫等、“できる”を見つけます。


コミュニケーション支援
対象者の残存機能に合わせ、視線やスイッチディバイスを用いた“できる”を見つけます。


入浴動作支援
自宅環境に合わせた浴そうに設定し、安全に入浴する方法を見つけます。


自助具導入
対象者の残存機能に合わせ、３Dプリンターも含め、自助具導入を検討し、必要に応じて作成します。

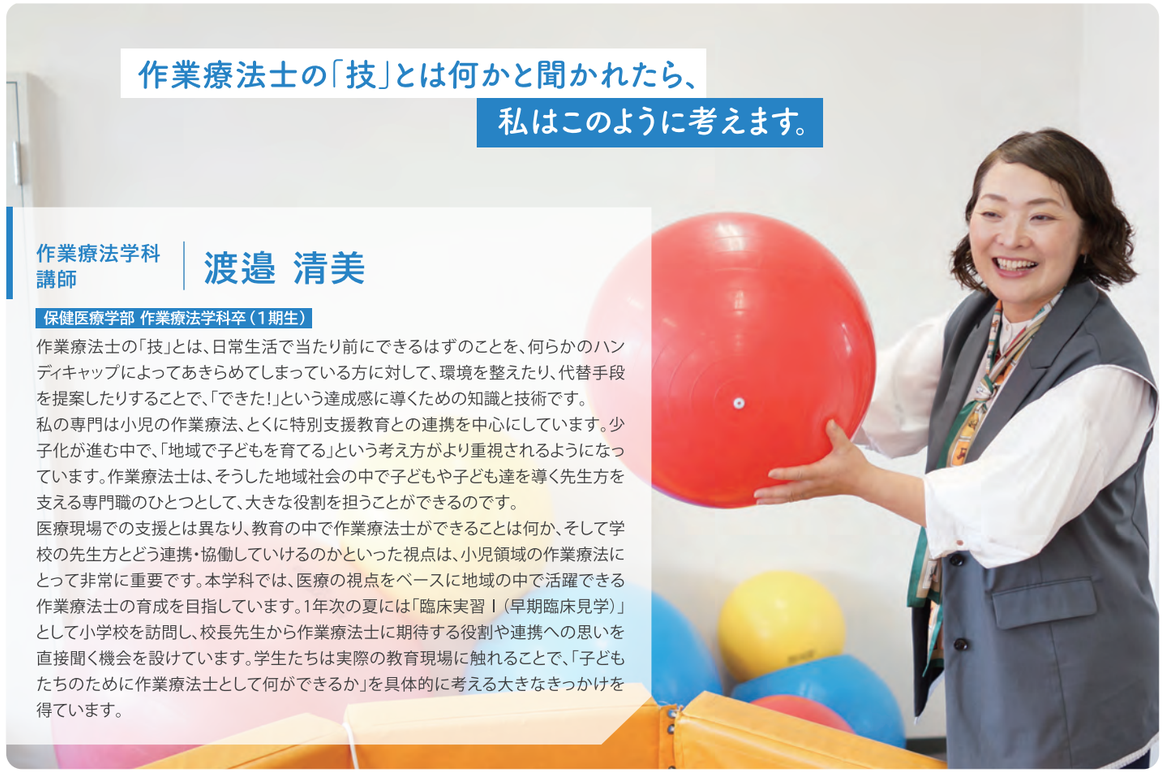


「なぜこの支援が必要か？」を考えることから、
急性期作業療法の本質が見えてくる

作業療法学科
教授
白砂 寛基

保健医療学部 作業療法学科卒（２期生）

私は急性期総合病院での勤務経験をもとに、『身体障害急性期における作業療法のあり方』について研究を続けています。病気やけがをした直後から、どのような支援が生活の質の向上につながるのか、またなぜそれが効果的なのかを探ることが主なテーマです。現在は、下肢の人工関節手術後や下肢切断後の方が、どのように日常生活動作を再び獲得していくのかを調査しています。研究の成果は、大学関連施設の作業療法士や本学の学生と共有し、『現場と教育の橋渡し』となるよう努めています。また、講義では『医療機関における急性期作業療法士の可能性』について、臨床現場での経験をもとにした話を取り入れ、教科書だけでは伝わりにくい『生きた学び』を提供できるよう心がけています。私は急性期病院で対象者にギターを弾いていました。その背景に何があるのか？我々と一緒に学んでみませんか？



作業療法士の「技」とは何かと聞かれたら、
私はこのように考えます。

作業療法学科
講師
渡邉 清美

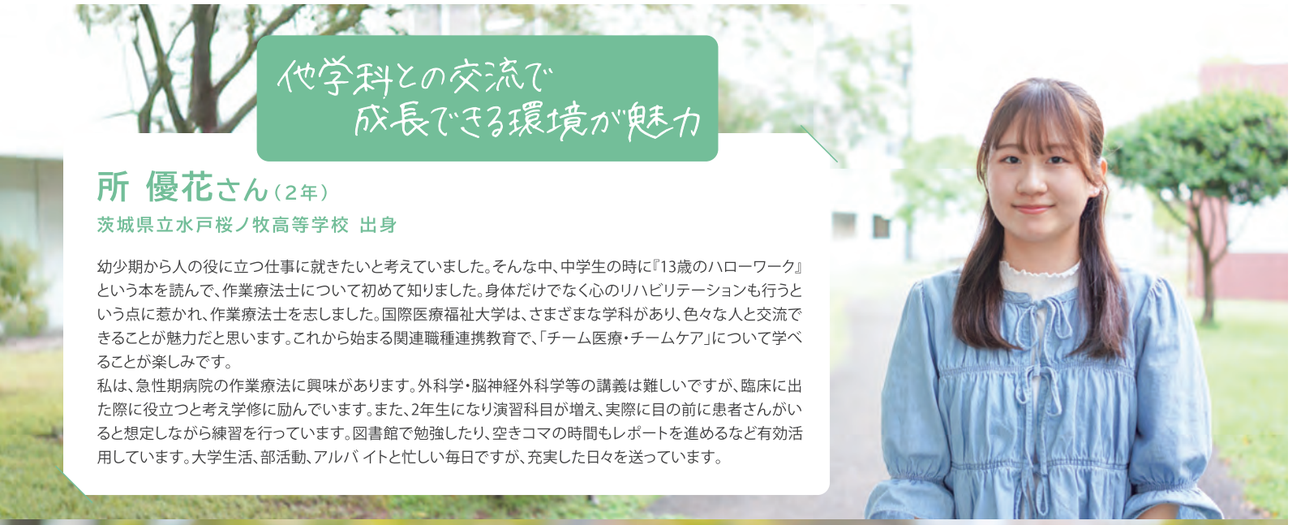
保健医療学部 作業療法学科卒（１期生）

作業療法士の「技」とは、日常生活で当たり前にできるはずのことを、何らかのハンディキャップによってあきらめてしまっている方に対して、環境を整えたり、代替手段を提案したりすることで、「できた！」という達成感に導くための知識と技術です。
私の専門は小児の作業療法、とくに特別支援教育との連携を中心にしています。少子化が進む中で、「地域で子どもを育てる」という考え方がより重視されるようになっています。作業療法士は、そうした地域社会の中で子どもや子ども達を導く先生方を支える専門職のひとつとして、大きな役割を担うことができるのです。
医療現場での支援とは異なり、教育の中で作業療法士ができることは何か、そして学校の先生方とどう連携・協働していけるのかといった視点は、小児領域の作業療法にとって非常に重要です。本学科では、医療の視点をベースに地域の中で活躍できる作業療法士の育成を目指しています。1年次の夏には「臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）」として小学校を訪問し、校長先生から作業療法士に期待する役割や連携への思いを直接聞く機会を設けています。学生たちは実際の教育現場に触れることで、「子どもたちのために作業療法士として何ができるか」を具体的に考える大きなきっかけを得ています。

作業療法士を目指す学生

同じ目標を持つ仲間と切磋琢磨しながら、
作業療法士を目指す学生たち。授業や実習で得た
経験や将来像について語ってもらいました。

※学生の学年は2025年時点のものです。



他学科との交流で成長できる環境が魅力

所 優花さん（2年）

茨城県立水戸桜ノ牧高等学校 出身

幼少期から人の役に立つ仕事に就きたいと考えていました。そんな中、中学生の時に『13歳のハローワーク』という本を読んで、作業療法士について初めて知りました。身体だけでなく心のリハビリテーションも行うという点に惹かれ、作業療法士を志しました。国際医療福祉大学は、さまざまな学科があり、色々な人と交流できることが魅力だと思います。これから始まる関連職種連携教育で、「チーム医療・チームケア」について学べることが楽しみです。

私は、急性期病院の作業療法に興味があります。外科学・脳神経外科学等の講義は難しいですが、臨床に出た際に役立つと考え学修に励んでいます。また、2年生になり演習科目が増え、実際に目の前に患者さんがいると想定しながら練習を行っています。図書館で勉強したり、空きコマの時間もレポートを進めるなど有効活用しています。大学生活、部活動、アルバイトと忙しい毎日ですが、充実した日々を送っています。



経験豊富な先生や先輩と共に学ぶ一体感が心強い

高橋 日向大さん（3年）

福島県立白河高等学校 出身

作業療法学科を選んだのは、チーム医療を重視する教育方針に惹かれたからです。最新設備が整い、豊富な実習先で多職種連携を実践的に学べる点や、国家試験で高い合格実績を誇る点にも魅力を感じました。入学前は専門的な学びについていけるか不安もありましたが、同じ志を持つ仲間とのグループ学習や先生方の手厚いフォローによって、その不安はすぐに解消されました。先生方は豊富な臨床経験をもとに親身に指導してくださり、先輩方からも実習や試験に関する具体的な助言を得られるなど、縦のつながりの中で学ぶ一体感があります。1年生の夏季休暇中には「臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）」があり、早い時期から現場を知ることで学びへの意識が高まりました。「関連職種連携論」では、他学科の学生と症例検討に取り組み、作業療法士の役割と他職種への理解が深まりました。将来は回復期リハビリテーション病院で、多様な職種と連携し、患者さんの退院後の生活まで見据えた支援に尽力したいです。

作業療法学科の4年間の学び

1年次

医学と作業療法の基礎知識を修得する。

解剖学、生理学、運動学など作業療法の基盤となる医学的知識および作業療法概論や作業工程技術学などの専門科目となる基礎学群を修得し、作業療法士への第1歩を踏み出します。「臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）」では、講義で学んだ知識が作業療法現場でどのように生かされているのかを学び、各自が思い描く作業療法士像を積み上げ、キャリアビジョン形成に役立てます。

2年次

作業療法の基本的な評価技法を理解する。

作業療法実践課程のうち、対象者の状態像を把握する「評価学群」の修得、作業療法士が対象とする各疾患に関する臨床医学の修得を通して、対象者に合わせた評価技能を養います。「臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）」では実際に作業療法の対象者と接する機会を通し、3年次以降に展開される臨床実習に向けた準備を進めます。

3年次

作業療法治療・支援技術を修得する。

対象者の治療や援助を行う「適用学群」「代償学群」の修得を通して、対象者に合わせた治療や援助技術を学びます。前期から「臨床実習Ⅲ（臨床評価）」を行い、臨床教育指導者の指導の下、評価の見学、模倣、実施を経験します。後期はOSCE（客観的臨床能力試験）を通して一定水準の技能を修得し、冬季に行われる「臨床実習Ⅳ（臨床推論・作業療法計画立案）」に備えます。

4年次

病院や施設に留まらない地域生活支援を学ぶ。

「応用学群」の講義では急性期から生活期まで、医療から地域までと幅広い分野で活躍する作業療法士に接し、各自形成してきたキャリアビジョンの完成を目指します。「総合実習Ⅰ・Ⅱ（作業療法実践）」「地域リハビリテーション実習」では、これまで学んだ知識や技術を臨床教育指導者の指示の下対象者に合わせて実践します。国家試験対策が本格的に始まり、学科一丸となって国家試験合格を目指します。

作業療法士として、医療・福祉の世界で活躍する卒業生

大学での学びを生かして
専門分野で活躍する卒業生に、現在の仕事内容や
やりがいについて話してもらいました。

広瀬 方博さん

国際医療福祉大学病院
リハビリテーション室 勤務（2010年度卒）



現在、国際医療福祉大学病院のリハビリテーション室で責任者を務めています。日々の業務は多岐にわたり、事務や会議、後輩や学生の指導などに取り組んでいます。その中で特にやりがいを感じるのは、作業療法の発展を考えること、若手の育成、地域住民との関わりです。作業療法はまだ世間に十分知られていない面もありますが、医療・福祉・日常生活など幅広い分野で活躍できる魅力的な仕事です。学生時代、本学で出会った熱心な先生方の教えは今でも私の原点となっており、実習や授業でも後輩に伝えています。今後は、大学や病院が地域とより深く連携し、「共に生きる社会」を実現できるよう貢献したいと考えています。また、作業療法の魅力を中高生にも広め、将来の選択肢のひとつとして関心を持ってもらえたら嬉しいです。



地域と次世代に、作業療法の魅力を伝える

佐藤 知佳さん

国際医療福祉
リハビリテーションセンター
なす療育園 勤務（2016年度卒）



大学3年生の実習で重い障害を持つ方と出会い、初めは何を感じているのか分からず戸惑いました。しかし繰り返し関わる中で、その方たちにもたくさんの「できること」や「好きなこと」があると気づかされ、大きな感動を覚えました。その経験がきっかけとなり、現在の職場である「なす療育園」で働く道を選びました。今は重度の障害や発達障害のあるお子さんたちに、遊びを通して成長を支援しています。また地域の健診や発達相談も行い、子どもたちや保護者と日々向き合っています。大学で学んだ知識や「作業療法とは何か」を考え続けた4年間が、今も臨床の土台となっています。これからも子どもたちが自分らしく生きる姿を支えられる存在でありたいと願っています。



子どもたちの「その子らしさ」を支える

一人ひとりの適性に合わせたサポートで、学生全員を医療福祉の世界へ送り出しています

医療福祉系大学のなかでも
豊富な求人情報と、
安定した高い就職実績

学生一人ひとりの個性や適性に寄り添いながら、
目標に向かって成長できるよう丁寧に支援し、医療福祉の現場へと導いています。

作業療法学科
求人件数
（2026年3月31日現在）
※全キャンパスの求人件数

1,941件

作業療法学科
卒業生就職率
（2025年度卒業生）

100%

作業療法士として、さまざまな分野で活躍する卒業生

大学での学びをいかして、さまざまな分野で活躍する卒業生に、現在の仕事内容ややりがいについて話してもらいました。

障がい者への地域支援事業を運営する作業療法士



木原 藍子さん（2006年度卒）

特定非営利活動法人 那須フロンティア 勤務 ［ 栃木県那須塩原市 ］

「メンタルヘルスを中心としたまちづくりへの寄与」を主軸に、市町村からの委託を受け、相談支援や日中活動支援、就労支援などの事業を運営しており、主に精神障害、発達障害、高次脳機能障害の方からの相談が多く寄せられます。
病気や障害を抱えながら地域生活を送ることの支援に、医療機関や行政、他の障害福祉サービスの事業所、企業などと連携を図り、携わっています。病院からの退院支援では、地域生活の再構築のために、住まいの確保や障害福祉サービスの調整を図ります。また、地域で暮らす方々のこれまでの暮らしの継続や、新しい生きがいの発見、他者交流の機会などを目的に、当施設でスポーツや菜園、手工芸などの活動を利用者の方々と共に行っています。
地域・まちの移り変わりに合わせて、利用者1人1人の想いに添った暮らしを支える手立てを築いていくことに尽力しています。

企業の中で、障がい者の就労支援に従事する作業療法士

添野 裕太さん（2011年度卒）

株式会社オートテクニックジャパン 勤務 ［ 栃木県芳賀郡芳賀町 ］

(株)オートテクニックジャパンでは障がい者雇用専用の求人で入社された方々が37名働いています。この方々は清掃班、緑地管理班、事務班のいずれかの班に所属し、それぞれの班で仕事をこなしてくれています。年齢層も障害種別もさまざまであり、仕事やプライベートの課題もそれぞれ持っています。私は皆さんと一緒に課題を共有し、課題を解決しつつ希望する限り長く仕事を続けられるようにサポートをしています。日々の業務の中では、仕事面だけではなく、生活面の変化を知り、その変化の中で必要な時に必要な分のサポートができるよう意識して関わっています。社外のさまざまな支援機関やご家族の方々の協力を得て、良い方向へ生活が変わっていく過程を近くで見られることにうれしさを感じています。今後も、ご本人の「こんな生活がしたい」に少しでも近づけられるようにサポートできたらと思っています。



テクノロジーを活用して障害児者の可能性に取り組む作業療法士



小林 大作さん（2006年度卒）

株式会社アシテック・オコ 代表取締役 ［ 和歌山県有田郡有田川町 ］

これまで地域の中核病院や訪問看護の現場で臨床経験を積む中で、障害のある方が大切にしている「作業」を少しずつ取り戻すことで、笑顔や生きがいを取り戻す瞬間に数多く立ち会ってきました。一方で、どんな支援者と出会い、どんな支援を受けるかによって、その後の人生が大きく変わる現実も目の当たりにしました。だからこそ私は、「できるようになったら、次はこれに挑戦したい」と夢を重ねていけるような支援を届けたいと考え、株式会社アシテック・オコを立ち上げました。現在は、医療や福祉制度だけでは対応しきれない「その人らしい生活」を支える取り組みを続けています。たとえば、重度の障害や神経難病のある方が「やってみたい」と願うことを、テクノロジーの力で実現できるように支援しています。3Dプリンターを活用した自助具の作成や、ICT・アシスティブ・テクノロジーによる意思伝達、在宅での就労や趣味活動の実現など、そのすべてに作業療法の知識と技術が生かされています。現在は和歌山県内の医療機関と連携して支援を広げるほか、厚生労働省や特別支援学校の事業・講演にも関わっています。今後も、障害があっても自分らしく生きられる「選べる未来」を届けていくことが私の目標です。

30年の歴史と実績があなたの未来を応援します。



大田原キャンパス
保健医療学部長
谷口 敬道教授

1993年から本学の設立準備に参画
国際医療福祉大学保健医療学部 学部長
○保健医療学部作業療法学科学科長（大田原キャンパス）、成田保健医療学部作業療法学科長（成田キャンパス） 歴任。
○大川キャンパス、小田原キャンパスを含めた4キャンパスの統括学科長 兼任。

一般社団法人 日本作業療法士協会 常務理事
那須塩原市地域自立支援協議会 会長
那須町教育支援委員会 会長
第15回 国際医療福祉大学学会学術大会 大会長

IUHW作業療法学科で学ぶ意義

国際医療福祉大学作業療法学科は、30年以上の歴史をもち、これまでに2,500名を超える卒業生を輩出しています。卒業生は全国の医療・福祉・地域支援の現場で活躍しており、新生児から高齢者まで、対象となる人々の「からだ」と「こころ」の健康を支えています。
本学科の大きな特徴の一つは、日本の作業療法の発展に大きく貢献してきた「レジェンド」たちの思いが受け継がれていることです。初代学科長である杉原素子先生は、日本作業療法士協会第4代会長を務め、米国・南カリフォルニア大学で学んだ国際的な視野を持つ指導者でした。また、第2代会長の矢谷令子先生は、米国・ロマリンダ大学で学び1963年に設立された日本で最初の作業療法士養成施設で長年教育に携わった人物です。私は、矢谷先生のもとで、かつて東京都清瀬市にあった「国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院」で作業療法（OT）を学びました。そして1993年からは、現在の国際医療福祉大学の設立に向けた準備に関わるメンバーの一人として、この大学づくりに携わってきました。
こうした偉大な先人たちが築いた基盤の上に、国際医療福祉大学は1995年に日本初の保健・医療・福祉を統合した4年制大学として設立されました。当時、専門学校が主流だった作業療法士教育において、本学の設立は専門職としての地位を大きく高める出来事でした。
現在、本学科の教員陣はすべてこうしたレジェンドの教え子であり、本学の卒業生です。臨床家・教育者・研究者として、それぞれが高い専門性をもち、学生一人ひとりの成長を支えています。学ぶ環境は、実践力と創造力を同時に磨けるように整備されており、「人の生活を支える力」を育むことを重視しています。
作業療法士（Occupational Therapist：オキュペーショナル セラピスト）は、病気や障害、加齢などにより生活に困難を抱える人々に対し、その人らしい生活を送れるよう支援する専門職です。単なる身体機能の回復に留まらず、「こころ」と「からだ」を同時に同等に重要視しながら、本来のリハビリテーション（地域社会における健康的な生活の獲得と定着）を実践します。
このように多面的で創造性が求められる仕事であるからこそ、本学では学生教育において「人間理解」と「創造力」を何より大切にしています。
国際医療福祉大学で学ぶことで、あなたもこの誇り高い専門職の一員として、地域社会に貢献し、未来を切り開く力を身につけることができます。

学生の未来を手厚くサポート
キャリア支援センター

キャリアコンサルタントが学生の強み「乗り越える力」を引き出し、
在学中はもちろん卒業後も継続してさまざまなキャリア支援を行います。



就職実績（2026年3月卒業生実績）

●本学グループ施設　〔栃木県〕国際医療福祉大学那須医療センター／国際医療福祉大学塩谷病院

●グループ以外　〔岩手県〕盛岡友愛病院　〔福島県〕寿泉堂綜合病院／総合南東北病院　〔茨城県〕茨城リハビリテーション病院／北水会記念病院／総合守谷第一病院／村立東海病院／立川記念病院／筑波記念病院／筑波メディカルセンター病院／水戸中央病院　〔栃木県〕青木病院／白澤病院／だいなリハビリクリニック／特定非営利活動法人那須フロンティア／栃木県医師会塩原温泉病院／栃木県立リハビリテーションセンター／リハビリテーション花の舎病院／リハビリテーション翼の舎病院　〔埼玉県〕川越リハビリテーション病院　〔千葉県〕印西総合病院／キッコーマン総合病院／タムス市川リハビリテーション病院／東京湾岸リハビリテーション病院／船橋市立リハビリテーション病院／東葛医療福祉センター光陽園／東葛病院　〔東京都〕板橋中央総合病院／河北総合病院／初台リハビリテーション病院　〔神奈川県〕麻生リハビリ総合病院／クローバーホスピタル

